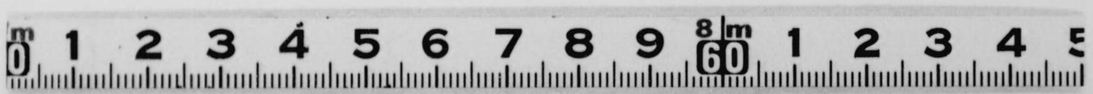
358
44

投



358-44

自樂庵曉溪述

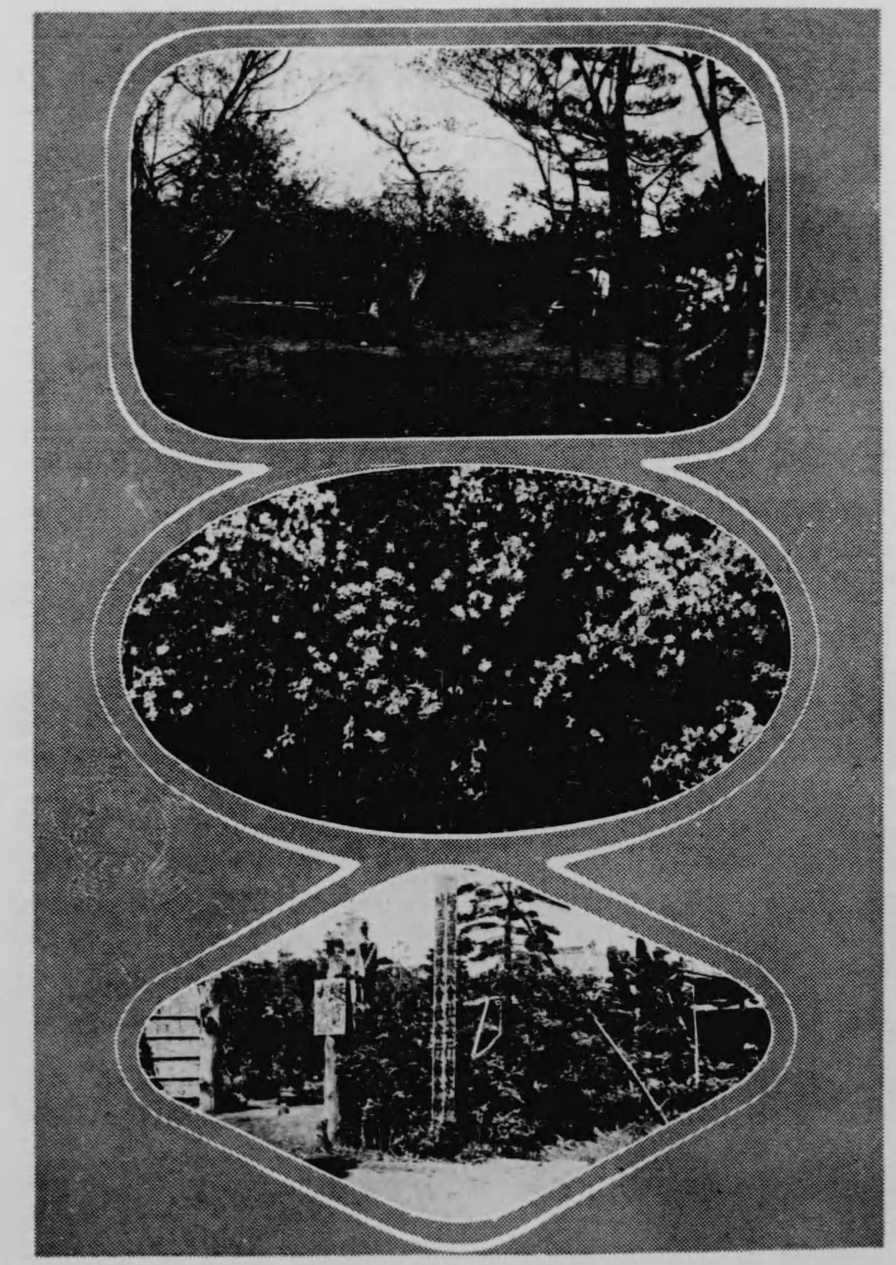
實驗躑躅之栞

埼玉園藝株式會社

大正
4. 5. 26
内交

自序

予幼より植物成育上の自然美に言外の趣味を有し、繁務の小閑に花卉盆栽を愛翫すること玆に年久し、春毎に一芽の殖るは知れど齢の重るを覺えず、斯ては早稲田伯の百二十五歳説又易々たるのみと、抑是何等の賜物ぞ。今回知己秋元氏躑躅之栞刊行に際し、予に斯花愛翫上の要項を述よと、再三辭すれど聽れず、語らぬ花の愛に絆され、同好家の一人にても增ことならと、浮々煽動に乘て淺學韮才をも顧みず之れが一端を草す。



（上段）大實寺山遊園地
（中段）埼玉園藝株式會社躑躅園　（下段）埼玉園藝株式會社苗木部

聊かたりとも初心愛翫家の伴侶となる所あらば深く光榮とす、記して以て序に代ふ。

大正四年卯月

於紅塵萬丈帝都日本橋

自樂庵曉溪

例言

一解説中の標準的參考花の花名の上に印せし符號の解は左の如し

○ハ皐月性　△ハ霧島性　×ハ琉球島　●ハ中性種　◎ハ西洋種

一參考花を大部分皐月性より撰拔せしは躑躅の五性を通じて皐月性が珍貴の花種に最も豐富にして研究上至便なるを以てなり。

一卷末に記載ある秋元氏の草稿に成れる現代躑躅銘鑑は、至誠と熱心を自己業務の本旨とせらるゝ同氏のことゝて花名と花容の解説矛盾せる如きことなからんと思惟さるを以て深く閲覽せず同氏編成の儘掲載せるものなり。

一花名は各地方により習慣上其稱呼を異にするもの有を以て隨て坊間稱呼の花名には解説中に掲げある參考花の花名と同一花名にて實質の異れる品又は異名同品あるを以て花期以外に不用意に購求せらるゝ時は開花期に當り以外の失望を來すこと無きにしも非ず故に相當の注意を拂はるゝこと肝要なり是單に躑躅而已ならず柘榴菊薔薇ダリヤ等凡て觀賞上色彩を重要視する草木に於て又然り。

例言

一初心愛翫家の便宜を圖り、此際特に躑躅に限り花期中と花期以外を問ず、本誌に掲げある花名と花容と一致せる品種を、誠意を以て紹介の勞を執るを惜まず、但し兎角外出勝なるを以て書面にて照會せらるゝこと、宛名は東京日本橋區本町一丁目十二番地大橋曉溪、且つ言ふまでもなく予は當業者に非ざるを以て無報酬なるは勿論なれど、本務多端の際及び無常識なる質問には應答せざる事有べし。

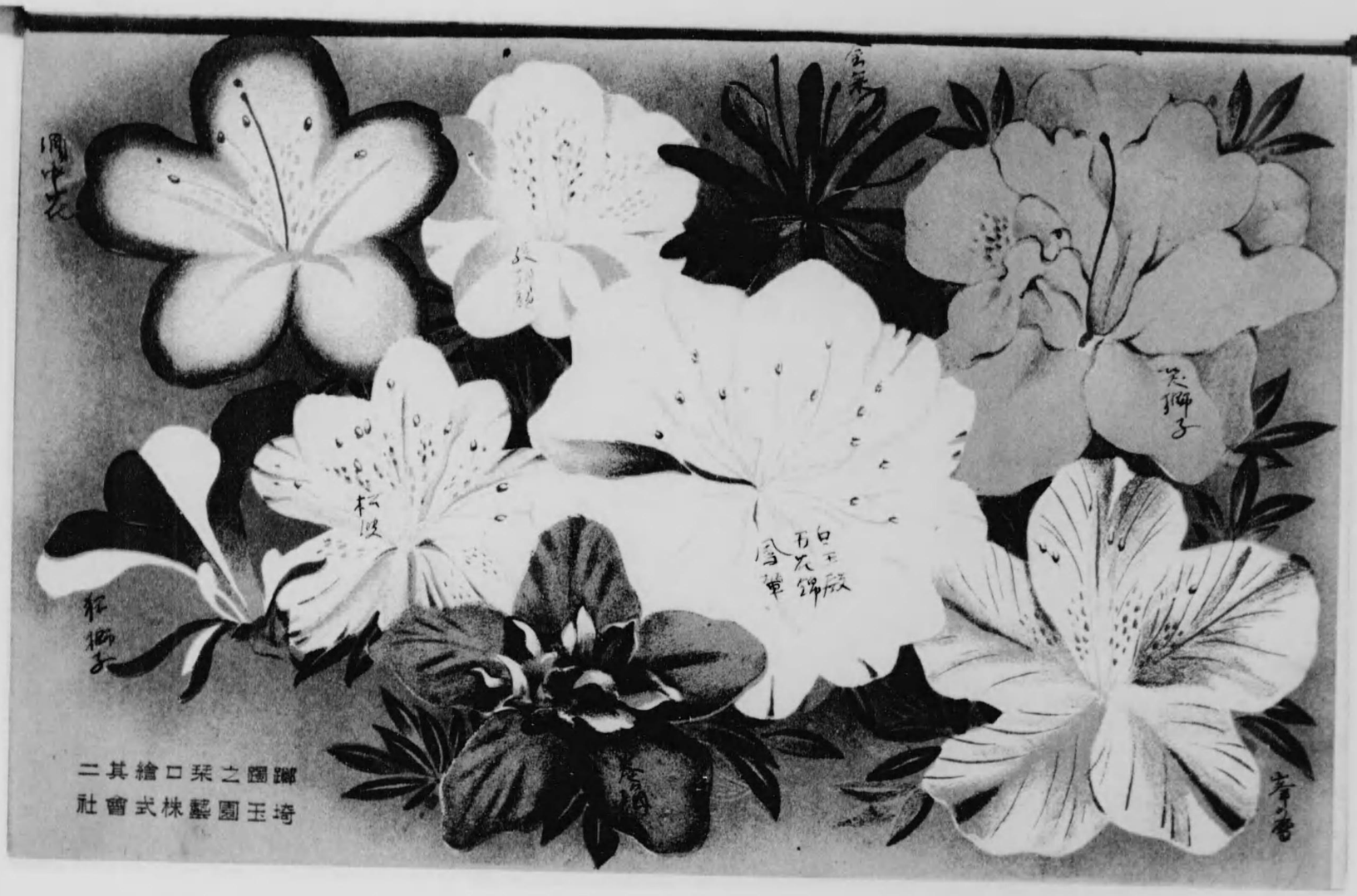
一卷頭口繪は予の愛翫せる草木を、畫家上沼氏が極彩色入念に揮毫されたる、觀賞植物實寫繪本の内より秋元氏の懇望により各花種の一小部分を掲げたるものなり、且つ紙面の都合により實物より何れも幾分縮圖されあり。

一自然と親しむ機會比較的少なき繁劇なる都市愛翫家を本位とせしゆゑ、鉢栽培に重きをおき、地植又は栽殖家に關することは詳說を避たり、且つ各事項とも古書及び先輩諸氏の經驗談と、自己の實地研究を綜合し、簡單乍らも誤謬尠き程度に於て染筆し同好家に頒つ、是蓋し衆と共に樂しむ吾人の微意に外ならず、冀くば大方の諸君之を諒せられん事を。

繪
四季躑躅
躑躅の分類
躑躅公子
躑躅山
躑躅
躑躅
躑躅
躑躅

躑躅園之栞口繪其一
埼玉園藝株式會社

晚明顔
酒中花
金粟
茶鐘子
（其二）
茶の華
松波
狂鐘子
鳳凰
卷絹



躑躅之栽培其二
埼玉園藝株式會社

實驗躑躅之栞目次

上沼江章實寫

口絵　石版彩色摺

一　源氏車　錦華山　綾錦　貴公子　高嶺紋　四季籬
蝶の羽重　聯隊旗
二　鳳輦　卷絹　松波　狂獅子　金采　峯の雪
酒中花　絞朝顔　笑獅子

第一章　緒論……一
第二章　沿革……三
第三章　躑躅の長所……六
第四章　花種研究の要項……九
一　樹性　二　葉形と葉色の區別　三　花輪と花色の區別
四　花瓣の區別　五　花容の區別　六　色彩の區別
七　皐月性の花葉變化　八　躑躅秀逸花　九　皐月性の品位等級

第五章　翫賞栽培の要項……三
一鉢物と盆栽の區別　二鉢　三養土
四施肥　五灌水　六置場所
七整形　八開花前後手當　九破蕾促進手當
十植替　十一繁殖期　十二害虫
現代躑躅銘鑑……四
一皐月性之部……四
二霧島性之部……四
三琉球性之部……四
四中性種之部……四
五西洋種之部……四
躑躅價格標準……四

實驗躑躅之栞目次終

實驗躑躅之栞

大橋曉溪述

第一章　緒論

現代の劇烈なる生存競爭場裡に活躍せんには、物質的營養に因て身體の健康を圖り、精神的營養に因て頭腦の健全を圖るを要す、且つ如何に、堅牢なる物品と雖も粗暴の扱ひを爲さば持久力短縮するは理の當然なり、況や其組織複雜緻密なる人體に於ておや、茲に於て各自日常天職に奮鬪努力の反動より來る、疲勞せる精神に適度の休養を與へ、復活力を旺盛にし、以て頭腦をして始終覇氣滿々たらしむるは獨り限伯のみならず何人も服膺すべき人生に於ける最大要素なり。

然して精神休養の道も世に頗る多けれど、自動的慰藉を根源とし、緩徐の屋外動作により清新の氣を養ひ生理上最も必要なる酸素の吸收を恣にし、而かも貴賤繁閑を通じて

造化の偉力に成れる美的妙味を樂みつゝ、旁ら一歩一歩と宇宙自然の眞理を修養せらるゝ處の、高潔なる思想を含蓄し、併せて攝生を兼備せる所謂百利あつて一害なき娯樂的園藝が、其冠たるべきものと信じて疑はざるなり、蓋し往昔深山に籠れる仙人が千歳の齡を保てる又宜なりと謂ふべし。

而して娯樂園藝の裡にて男女老若を問ず、古今を通じて最も歡迎せらるゝは觀花植物の培養である、然れど人の嗜好は十人十色の如く、予は躑躅の培養及び觀賞趣味の深遠廣汎なる夥多觀花植物の中にて恰かも曉の星を見るが如き感を抱くものなり、然り乍ら「知らぬが佛」又は「喰べず嫌ゐ」と言ふ諺の如く、一部同好家以外の方は皐月ツゝジと云へば桃色の一種、霧島ツゝジと云へば濃紅の者のみと早合點して、如斯多種多樣あるを知らぬ人尠からざるは、恰かも寶の持腐と等しく我邦園藝界にとりて遺憾の至りなり、此際に當り本邦に於て各種苗木の最大生産地として轟名ある、埼玉縣安行に於ける斯界の饒將秋元氏が同所大寶地山の全地域及び其附近に於ける擴大の仕立地と得意の技倆を擧げて是が改善栽殖と一般普及を圖り併て海外輸出に全力を盡されんとす、畏多くも　一天萬上の大君が內地生産品御奬勵の龜鑑を垂れ給ふ今日、吾人は同氏が自己の天職に忠實なるを賞揚すると共に、其國家的壯擧を翼贊するものなり。

第二章　沿革

躑躅が觀賞樹として世人に愛培せられし初期の年代は詳らかならねど、我邦にては正保年間即ち今を去る二百七十年前までは、單に山間谿谷の野生種を採集して庭園に移植し觀賞せるに止まり、隨て其種類も極めて僅少なりしことは、享保二十年出版（今ヨリ百八十年前）の菊岡沾淳先生著、續江戸砂子其他古書及び古老の言を綜合記述せる左の事跡に因て推察せらるゝならん。

元祿時代（今ヨリ二百二十七年前）より文政年間に亙る百三十有餘年間、躑躅の名所として世の俗謠にまで唄われたる、江戸染井に於けるツゝジの起原を探ぬるに、享保より文政に亙る百十四年間德川幕府の御用棗駝師として、江戸一番の稱ありて明治十四年頃まで家系連綿せる、城北染井伊藤伊兵衛氏の祖先三之丞なる人知己との座談に、

正保年間に薩州霧島山の原産なるツゝジ一株大阪へ初めて來り、是を株分して五本と爲し京都へ登り、珍賞の餘り富士山、麟角、面向、無三、唐松と命銘せられ、其內富士

山麟角の二本は樹容殊に見事なりとて畏多くも禁裏の御庭に植り、殘り三本尙京都に有るを聞き、

明暦二丙申年(二百六十年前)に至り、前述の面向無三唐松(此三元木は享保十八年伊藤伊兵衛氏の版元にて發行されたる、浮世繪の大家近藤清春氏の寫生畫及び說明書に就て見るに、其當時既に何れも根廻り二尺五寸餘高さ一丈二尺餘もある、ツヽジとしては實に壯麗な樹容にて、每歲錦を敷き樹勢益々壯んなりとあり)の三名樹を取寄せしを始めとして、其後各地の山野より幾多の珍らしき野生種を採集し、是等を親木として繁殖成し、熱心培養の結果改良種をも作成し、汎く諸國へ賣弘められたり、而して每歲花期には秋元氏と等しく廣大なる栽培場を開放し一般同好家の觀覽に供せり、爲めに都人は素より遠國より來り觀るもの群を爲し其雜踏言語に絕へたりと。

元祿三年に至り三之丞氏は自己栽培のツヽジ三百五十餘種の裡主なる花形を墨繪に顯はし、花名色彩特性培養法を逐一解說せる長生花林抄(享保十八年に伊藤伊兵衛氏の名義にて再版せらる)と題する三冊續きの躑躅專門書及び花壇地錦抄とて三十冊續きの草木培養書を刊行し同好家に分讓せられたり、昔時未だ文運の發達せざる時代に斯の如き豐大なる專門書の出版せられたるを推しても、如何に其年代に躑躅を始め一般花卉愛培家の多かりしを知るにたらん。

然れど一盛一衰は世の凡てを通じて理の然らしむる處、我邦に於けるツヽジ栽培の始祖三之丞氏の丹精によりて元祿時代より百有餘年の久敷き間偉大の氾盛を見たりしツヽジも、美術品を始め一般娛樂物と等しく王政復古の政變と共に一時衰退し、就中ツヽジの內にて珍貴の美花豐富を以て第一位と稱せらる皐月性に至りては種類及び名樹の減少と共に花銘の紛亂又著るしく、當業家及び愛翫家共に其眞價取捨に苦しみ愛培上の困難一方ならざるに至りしは惜しみても餘りありと云ふべし。

然るに今より六七年前、帝都淺草觀世音附近の二三盆栽愛翫家が、斯花の美觀に付て熱心なる趣味の許に各自競爭的に城北染井を始め、府下近鄕の植木屋を探ね、次第に多くの種類を集め居られしが動機となりて、年每に淺草附近を始め市內各所に同好家增加すると共に營業家及び愛翫家時々相集り長生花林抄及び古老の言を參酌し、協贊研究の上順次花名を査定し、經驗と理論を應用し珍花名樹を養成し益々發達を視るに至れり。

幸ひにも大正三年度には、其花期が恰かも大正博覽會開催中の事として、同好家及び報知新聞社並に秋元新藏氏等各自主催の許に、都下各所に皐月躑躅陳列會開催の機運に達し、急速の進歩を以て今日我園藝界に一頭角を現はし、倍々の愛培家增加し、又一面には霧島ツヽジと共に、歐米各國へ多額の輸出を見るに到れり、近時舶來品心醉は草木にまで及ぼし猥りに洋花輸入の際に當り邦家の爲め眞に痛快の至りとす。

第三章　躑躅の長所

躑躅の長所が如何に多樣なるか、左に記せる條項を一讀されなば眞に行く處可なりと云ふも、過言に非ざるを自得せらるゝならん、然り乍ら常人の短所なる無限大の慾心を以て批判せば尙望む所なきに有ねど、這は恰かも人と雖も一點の非を打所なき人は、人に非ずして神の如く、花と雖も又是と等しく極樂淨土ならば去來しらず、現世に於て期待する事は不可能である、故に比較的長所多きを賞揚すべきは是又至當と云ふべし。

一、花容と色彩は清楚、淡麗、高雅、華美、奇趣、濃艶等多々ありて、各自の嗜好に適せる花を自由に撰擇翫賞し得らること

二、幾多の花種を接合せたる者で無きかと疑はるゝ程、天然の一樹にて半染、飛入、春雨、微塵、追羽子等の各種の絞り花並に紅白無地淡濃の優艶佳麗な色彩を咲分くる花種、又は牽牛花の獅子、牡丹咲の如き一樹に千變萬化せる珍奇の花態を咲分くる性來の花種多々あること

三、樹勢強健にして樹質堅硬、枝稍簇生的にして繁茂力旺盛、樹齡の老若を問ず多肥を要せずして、而かも年々毎梢頭に多數の花蕾を着け、特例を除き毎年播種又は植替を要せず、隨て培養法比較的簡易なること

四、樹容の大小任意に調節するも花着に違常なく、置場所及び氣候の寒暖に比較的好嫌なく、且つ長時間に亙る强烈の日光を要せざるを以て、人家調密せる市街地の翫賞植物として最適せること

五、大部分は常綠性にて、種類によりては春の若芽、夏の深綠、秋冬の紅葉又一段の美を粧へ、加之ず凡てを通じて翌年開花すべき花蕾は、其年の十月頃より葉芽を超越して現はれ、一層の美を飾るを以て、一般常綠樹よりも季節折々の變化に富み、殆んど四季を通じて一觀賞せらること

六、各種類の花期を通算せば、四月中旬より六月下旬に亙る八十餘日となり、一花よく三周日の賞觀に堪え、又四季咲もあり

且つ溫室培養可能にして、嚴冬より引續き開花を促し得らる、一般觀花樹木中ッヽジ程觀賞期久しきもの又稀なりと云ふべし

七、繁殖法は天然及び人工を問ず、植物に行はるヽ凡てを通じて施行せられ、且つ他に其例極めて稀なる、實生變化種作出法と同樣なる芽條變化即ち枝變り繁殖法も容易に行へ得らるヽこと

八、鉢栽培としては、花葉の美的調和せるもの又頗る多く、掌大の盆裡に山野の自然美を活躍し、自身其景中の人たる如き、情緒を聯想せしむる文人式盆栽作り、恰かも妙齡美人の盛裝を見る如き全枝花を以て飾られたる華美艶麗なる傘式又は見臺式鉢植作り、其他千態萬樣各自の隨意に仕立らること

九、地植としては、庭園の築山、池畔、私園又は公園の洋式花壇に樹性花容色彩の調和を圖り植込なば、卯月より水無月に亙る長期間萬綠蔚蓊中に爛熳として錦繡を織成たる光景を發露せしめ得ること

十、和洋兩室の挿花として、花葉とも水揚よろしく二周餘日の觀賞に堪え、其花持の久しくして經濟的なる一般花卉中稀れに見る所なり

殊につヽじの花は、菊花又は牡丹と均しく生のまゝ又は三杯酢或は鹽漬として食料に賞用せらるヽ特點もあり

十一、價格比較的低廉にして、樹容と花種の慾心を制せば、單色種は勿論一樹に五通り以上に變化せる美花を天然に咲分ける種類を、半圓を要せずして求められ、而かも毎年確實に多數の開花を促し得らる、眞に一般向の觀賞花と云ふべし

十二、海外の需要又盛んにして、年々我邦より輸出する數百種の觀花植物の内、第一位の多額は百合にて第二位は躑躅である、而かも漸次增額を見つヽあり、躑躅の國家經濟に貢獻する所又偉なりと云ふべし

第四章　花種研究の要項

世の凡てを通じて單調なる者は趣味淺く、複雜なるもの趣味深きは言を俟たずッヽジの翫賞又然り、殊に花容色彩の多種多樣なるのみならず、他の草木に極めて稀に見る處

の一樹に五彩以上の咲分種又は一樹に全然其形狀を異にせる花容を咲分る花種多々あるは、躑躅、翫賞の特長にして要素である而して翫賞上是が種類及び花態の組織と其部分的稱呼を、無より淺、淺より精と次第に精しく知らるゝほど、趣味の向上と花種の撰擇に便宜尠からざるべしと信じ、茲に研究上の一端を揭載し識者の示教を待つ。

第一項　樹性

躑躅は漢名にて我邦にてはツヽジと稱呼し、植物學上 Rhod dendron「ロード、デンドロン」即ち石南科に屬し、其大部分は常綠性灌木なり、而して是が原產地は本邦を始めとし印度、支那等の東洋に於ける霧深き山地に自生す、今日歐米より東洋に輸入せる Azalea「アザレヤ」即ち西洋ツヽジは、我邦及び印度より種木を取寄せ巧妙なる園藝的技術の許に改良作出せられしものなり。

躑躅の樹性を各特異質により詳細に區別するときは二十種近くの多種となる、然り乍ら愛翫家及ひ當業家相互應用的に分類せば左の五性となる。

一、皐月性

常綠性にて花種現在百三十點程あり

- 異名及類似性　杜鵑花　松島ツヽジ　五月ツヽジ　佐豆木
- 特質　霧島性を始め多くのツヽジは春芽の出揃はざる以前即ち古葉存在の儘にて破蕾すれど、本性に屬する躑躅は新綠の出揃ひたる所にて開花するゆゑ、恰かも新裝の美人を見るが如き觀賞上又一段の價値あり、且つ樹容に雅あるを以て文人式盆栽作として歡迎せらる。
- 花期　五月中旬より六月下旬に亘り連續開花す、西洋種を除きたる他の四性には四季咲種もあり。

二、霧島性

常綠性にて花種現在二百點程あり

- 異名及類似性　錦光花　久留米ツヽジ　石嚴　映山紅
- 特質　皐月性は花容の變化と共に葉形を全然異にするもの或は花輪大小の差著るしきもの多々あれど、本性に屬するツヽジは色彩は皐月に均しく多種あれど、花容花輪葉形とも至極中庸を得たる品種にて且格別著るしき相異を見ず、隨て文人式盆栽作も不可なけれど就中傘式又は見臺式作りには誂へ向の適應種である。
- 花期　四月中旬より五月中旬に亙る、皐月性の如く逐次的でなく一際に簇開する

氣味あり

三、琉球性　常綠性にて現在花種五十點程あり

異名及類似性　平戸性　淀川性

特質　枝梢及び葉面に、横臥せる夥多の細毛を葺き、花も葉も概して大形のもの多く樹勢はッヽジ中最も旺盛なり、且つ本性に屬するッヽジの大部分は花蕚に恰かも鳥黐の如き强烈なる粘氣を分泌する特質あり。

花期　花種により早晩の差著るしく四月中旬より五月下旬に亙る。

四、中性種

前記三性を除きたる內地產のッヽジにて、其品種十點以下の者を煩累を避んため、便宜上玆に一纏めして中性と稱ふ、隨て各特異質を一定の許に解說すること難し。

イ、雲前ッヽジ　常綠性にて花種現在六點程あり、葉も花もッヽジ中最も細かく古來より盆栽作りとして觀賞せらる。

ロ、蓮華ッヽジ　落葉性にて花種現在三點程あり、羊ッヽジ、犬ッヽジとも稱へ花容は何れも華麗なる大輪なり。

各ッヽジの花及びッヽジ餅(ッヽジの葉面に自然現出する餅に似たる異樣の固形物)は食料品として賞用せらるれど、蓮華ッヽジに限り觀賞上には勿論何の障害なけれど、食料としては花葉とも人馬に有毒なるを以て其用を達せず。

此外磯ッヽジ、米ッヽジ、巖ッヽジ、ドウダンッヽジ、三つ葉ッヽジを始め中性種に屬する品種數々あれと省畧す。

五、西洋種　常綠性にて花種現在六十點程あり

花輪及び葉形豐大にして色彩概して濃艶なり、內地產のッヽジと比較し寒氣を恐る氣味あるゆゑ冬期適度の保護を要す、且つ樹性及び花期とも琉球性に似たるもの多し。

第二項　葉形と葉色の區別

一、葉形

大別せば左の四樣となる

イ、劍葉　○大盃○笑獅子○貴公子の如き葉面滑澤にして平篇緊張し、先端鋭刀形を爲せるを云ふ俗に皐月葉とも稱ふ。

ロ、孔雀葉　○御所櫻○錦華山○高嶺絞の如き、狹長楕圓形にして葉先及び兩緣、葉裏へ反捲下垂の氣味ありて、先端鈍刀形を爲せるを云ふ、俗に松島葉とも稱ふ。

ハ、鷄卵葉　○絞朝顏○博多白△蝦夷錦の如き、幅廣楕圓形にして葉面平扁のもの又は葉先及び兩緣、孔雀葉と反對に葉面へ抱卷跳揚の氣味ありて、葉端圓形を爲せるを云ふ、俗に霧島葉とも稱ふ。

ニ、砂摺葉　×大紫×青崖◉黃蓮華◎天司寶の如き、葉面に細毛を葺き砂荒付氣味にて先端銳刀形を爲せるを云ふ、俗に琉球葉とも稱ふ。

此他中間的の葉形數種あれど大同小異なるを以て省略す。

二、葉色

大別せば左の三樣となる

イ、青葉　○御所櫻○絞朝顏×大紫の如き、四季葉面綠色の普通葉色を云ふ。

ロ、赤葉　○貴公子△日の出○瑞隆寺の如き晩秋より葉面全體に徐々と淺紅色を帶び、嚴寒期尤も深紅となり、春彼岸頃より漸次綠色に戻る葉を云ふ。

ハ、斑入葉　○松波の如き葉面に赤葉と同性質の赤色斑入葉及び○古錦に混出する常習的の淡黃色半月形斑入葉を云ふ、此他尙幾分あれど小數の者ゆゑ省略す。

冬期に至り落葉著るしきは、其品種の性來にもよれど、夏秋の季に施肥灌水の調度を誤り、幾分衰弱氣味を來せし場合に多し、然れど花蕾には比較的障害少きものである、且つ常綠性の古葉は春芽の出揃たる時と、初冬との二回に落葉すれど冬季の方多量なり。

第三項　花輪と花色の區別

一、花輪

花輪の大小は其木の性來に因るものと培養の巧拙に因る場合あれど、參考花は凡て性來を標準として左に概畧を揭ぐ。

最大輪	直徑二寸五分以上	○十六夜	
中輪	直徑一寸五分以上	○松波	
最小輪	直徑五分以內	◉雲前	
大輪	直徑二寸以上	○錦華山	
小輪	直徑一寸五分以內	△蝦夷錦（えぞにしき）	

二、花色

色合の濃淡と光澤の强弱により、稱呼を異せるものを擧れば五十種以上となれど略別せば左の如き者ならん。

青白色……○博多白　　鴇色……○笑獅子
桃色……○大盃　　丹紅色……○谷間の雪
紅色……○御所車　　緋色……○太陽
紫紅色……○勇獅子　　黄色……◎黄蓮華
樺色……◎樺蓮華

第四項　花瓣の區別

花瓣を大別せば本葩、蕊葩、袴葩、不整葩の四樣となる、左に其要點を解說す。

一、本葩

本葩とは其樹性來の花瓣を云ふ、之を略別せば左の八通りとなる、

イ、並葩　○大盃○松島の如き、楕圓形の普通花瓣を云ふ。
ロ、丸葩　○谷間の雪○人丸の如き、丸形の愛らしき花瓣を云ふ。
ハ、長葩　○松波○楊貴妃の如き並葩より稍丈長の花瓣を云ふ。
ニ、狂葩　○夕霧×大紫の如き、周圍稍狂たる花瓣を云ふ。
ホ、鋒葩　○風車×十重車の如き、先端尖れる花瓣を云ふ。
ヘ、襞積葩　◎天司寶の如き、周圍に襞積を取れる花瓣を云ふ。
ト、光琳葩　○御所櫻○錦華山の如き、梅の花片に似たる稍圓形の花瓣に櫻の花の如き瓣先に淺き切込ある、最も中庸を得たる上品な花瓣を云ふ。
チ、采葩　○綾錦○金采の如き、細長き風雅な花瓣を云ふ。

二、芯葩

蕊葩とは其花性來の花葩でなく、花蕊が奇形の花瓣に轉化し花心に現出せるを云ふ俗に內獅子葩、亂曲葩、內丁子葩とも稱ふ、是を大別せば左の七通りとなる。

イ、髭葩　○笑獅子○花吹雪の花心に現出する、恰かも龍の髭の如き縱橫に走れる長短不定の絲の如き花瓣を云ふ。
ロ、風鈴葩　○參考花右同斷髭葩の先端に小花片の附着せし花瓣を云ふ、俗に旗蕊又は雀蕊とも稱ふ。
ハ、鳥甲葩　同　風鈴葩より全體に稍幅廣の花瓣を云ふ。
ニ、匙葩　同　鳥甲葩より一層巾廣の抱ひたる花瓣を云ふ。

ホ、簇雲葩　同　本葩に近き幅廣の周圍不整の花瓣を云ふ。

ヘ、松葉葩　○金蕊○綾錦に現出する、松葉の如き清楚な花瓣を云ふ。

ト、渦葩　○卷絹○山姥◎天司寶の花心に現出する、抱へ狂へたる渦卷形の華麗な花瓣を云ふ。

三、袴葩

袴葩とは重ね咲の下葩が畸形の小花片に轉化し、上葩の外廻りを飾れる花瓣を云ふ俗に外獅子葩又は外丁子とも稱ふ之を大別せば左の三通りとなる。

イ、獅子葩　○狂獅子○九十九獅子に現出する、花軸まで分裂せる廣狹不整の狂ひたる數切の花瓣を云ふ、色彩は上葩と一致せる場合多し。

ロ、簑葩　○簑錦○源氏腰簑に現出する、稍深く五裂せる先端刷毛目を爲せる追羽子形の袴葩を云ふ、色彩は上葩と殆んど同樣なり。

ハ、鬘葩　○花桂に現出する五個の淺き鋸齒目を爲せる筒形の袴葩を云ふ、色彩は上葩の如何に拘らず凡ての場合に淡黃色なり。

四、不整葩

○松波又は○龍頭等の枝打咲或は節化咲に現るが如き、花態を整はざる小花片を云ふ。

第五項　花容の區別

複雜なる花態も之を大別せば、尋常咲即ちッ、ジとして比較的穩容なる咲方と、異常咲即ち花瓣の單重を問はずッ、ジとして奇異なる咲方との二樣となる、左に是が大要を解說せん。

一、尋常咲

イ、單重咲　○大盃△日の出×大紫の如き、五個の淺き鋸齒目を爲せる萼と、輪端展開五裂せる花瓣と、伸長せる一雌五雄若くは一雌十雄の花蕊より成れる、ッ、ジとしての並咲を云ふ。

ロ、二重咲　○四季籬△蝦夷錦の如き、並咲の二段重ねの咲方を云ふ。

ハ、八重咲　○四季の羽重○紅牡丹の如き、並咲の三四段重ねの咲方を云ふ、俗に二重以上の重瓣咲を單に重ね咲とも稱へ、雌蕊一本のみにて雄蕊なき花を八重獅子牡丹

咲、花瓣のみの花を八重牡丹咲と稱す。

ニ、千重咲　○紅萬重の如き、五段以上の花蕊なき咲方を云ふ、俗に萬葉又は萬重咲或は千重牡丹咲とも稱ふ。

二、異常咲

イ、朝顔咲　○絞朝顔△麒麟の如く、花首稍太長くして輪端展開せる咲方を云ふ。

ロ、車輪咲　○鳳輦○源氏車○御所車の如く各花瓣の側端が互に淺く重りて、車輪狀に水平に展開して咲く、六瓣以上二十瓣近くの一重又は重ね咲を云ふ、而して雌蕊の太く短かく彎曲して花底に密着するは車輪咲の特質にて、又花心に數多の雌雄蕊の外に亂曲咲の如き各種畸形の花葩を現出す、其花容の奇趣橫溢にして而かも華美艶麗なる凡百の花卉中稀れに視る所なり。

ハ、亂曲咲　○笑獅子○花吹雪○飛龍の如き、花輪の中心に髭、風鈴、烏甲、匙、簇雲の稱ある。花蕊の轉化せる奇形の花瓣の一種、若くは數種を混交して現出し、一重又は重ね咲となる特異の咲方を云ふ、恰かも牽牛花の獅子、牡丹咲種の如く、千態萬容の奇趣ある咲方なり。

ニ、花笠咲　○卷絹○山姥◎天司寶の如き、花輪の中心を夥多の渦葩を以て飾られたる、恰かも往昔祭禮時に冠れる花笠の如き艶麗なる咲方を云ふ、俗に丁子咲又は芍藥咲とも稱ふ。

ホ、袴咲　○狂獅子○簑錦○花桂の如き、花輪の外面を獅子、簑、鬘の稱ある、奇形の小花片の一種を以て飾られたる奇異なる咲方を云ふ、○二重鶴○絞り朝顔△蝦夷錦×白瀧等の如き二重咲に應々枝變りとして雜り咲く。

ヘ、采咲　○綾錦○金采の如き、恰かも往昔一軍の將官が軍隊指揮に用ひし采配の如く、花軸まで幅狹く細長く分裂せる一重又は重ね咲の至て風韻ある咲方を云ふ俗に切咲とも稱ふ、又○難波錦△舞孔雀の如き切咲を掌狀采咲と稱ふ。

ト、蕊咲　◉金蕊又は○綾錦に交り咲く如き勢ひよく伸長せる幾多の花蕊のみにて花態を整形せる松葉の如き雅致ある咲方を云ふ。

チ、眞咲　△福笑○笑獅子に交り咲く如き、花輪の中心に雌蕊のみ一本違常に伸長して、雄蕊は悉く花軸に縮着、又は亂曲咲に見る如き雌蕊一本のみにて雄蕊が悉く珍奇の花瓣に轉化したる咲方を云ふ、俗に一本眞咲とも稱ふ。

リ、節化咲　○龍頭及び凡てッヽジの節化芽に咲く處の瓣數及び花瓣の廣狹長短著るしく不統一にして殆んど花態を整わざる花のみ多き不可思議の咲方を云ふ、且つ節化芽には丸幹と平幹との二樣ありて、双方とも樹肌は恰かも鱗を剝したる魚肌の如く粗荒なり。

ヌ、輪違咲　○松波に雜り咲く如き、豫定の瓣數より增減したる瓣數にて花態を整へる花、又は花態を整はざる小花片を云ふ。

ル、枝打咲　○松波に交り咲く如き、一萼中に二花密着して咲くを云ふ、然れど一花は蒲足に咲けど、一花は花態を整はざる小花片に終ること多し、且つ輪違と同じく毎年一定の枝に咲くこと稀なり。

第六項　色彩の區別

千變萬化せる色彩も其元に遡り之を大別せば、單色即ち一色にて彩られたる無地花と、復色即ち二色以上の異れる色にて彩られたる染分花との二種に分類せらる、而して其色彩の變化に伴ひ、應用上其稱呼を異にするを以て左に之を略說す。

甲、本無地花
乙、移無地花
丙、暈し花

一、無地花

○大盃○博多白の如き性來よりの無地花を云ふ。
○太陽○月宮殿の如き、染分花より轉化せし無地花を云ふ。
○御所櫻の如き、殆んど無地に近き暈し花を云ふ。

二、染分花

染分花を大別せば覆輪花と絞り花の二種となる、而して双方とも地色に白地と淡色地との二樣の別あり、之が大要を左に揭ぐ。

甲、覆輪花　大別せば底白、淵白、金襴の三樣となる

淵取り又は緣取りとも稱へ、花輪の周圍と花心との色彩が相異れるを云ふ、而して覆輪の深淺により爪覆輪、糸覆輪、幅廣覆輪と稱ふ。

一、底白覆輪　○谷間の雪、○貴公子△伊呂波山の如き花底白色にて、花輪の周圍他の色にて彩り、花面に絞り模樣を少しも混出せざる覆輪花を云ふ、俗に之を本覆輪花とも稱す。

二、淵白覆輪　○聯隊旗○小町の如き、花面の大部分が追羽子絞を以て彩り、且つ

各花瓣の先端を除きたる兩側緣に、白覆輪を彩りたる覆輪花を云ふ、俗に之を鋏覆輪とも稱ふ、且つ淵白覆輪の花種は○錦鳳○松波の如き白地絞りの花種より技變として轉化せしもの多し。

三、金襴覆輪

○高嶺絞○錦華山に雜り咲くが如き、一花面が噴上絞七分、吹込絞三分位の比例にて混彩されたる、最も復雜なる覆輪花を云ふ、而して高嶺絞の如き淡花地に混彩せるを淡色地金襴覆輪と稱へ、錦華山の如き白地絞の花に混彩せる稱呼を淵白金襴覆輪と稱ふ。

乙、絞り花

大別せば噴上、吹込、友禪の三樣となる。

一、吹上絞

淵白覆輪及び金襴覆輪の主要色彩にて、俗に羽子絞りとも稱へ、花底より花輪の先端に向け、地色と異れる色にて噴上式に羽子模樣を彩現せるを云ふ、而して噴上絞り即ち羽子模樣に左の三通りあり。

羽子模樣とは狹長楕圓形にして先端鈍刀形を爲し、中央部無地にて周圍刷毛目狀を爲す、恰かも鳥の羽子を描寫せし如き色彩を云ふ。

イ、追羽子絞　花輪の全花瓣に羽子模樣を彩るを云ふ。

ロ、矢羽子絞　花輪の一部の花瓣に羽子模樣を彩るを云ふ。

ハ、裂羽子絞　花輪の一部の花瓣に竪に裂たる羽子模樣の一部分彩現せるを云ふ。

二、吹込絞

覆輪花以外の普通絞り咲種の主要色彩にて、噴上絞りと反對に花輪の先端より花底に向け、地色と異れる色にて吹込式に絞模樣を彩現せるを云ふ之を大別せば鹿の子絞り、更紗絞り、鳴海絞りの三樣となる。

イ、鹿の子絞　○嵐山○花地神樂の如き、一花面が霧を吹掛たる如き各種の斑點絞りを以て混彩されたるもの、若くは之に僅少の更紗絞りの混入せる色彩を云ふ、俗に吹掛絞とも稱へ之を細別せば左の二通りとなる。

微塵絞　微塵粉を散したる如き極細微の色彩を云ふ。

霰絞　霰の散れたる如き、稍大粒の色彩を云ふ。

ロ、更紗絞　○人丸○絞朝顏の如き一花面が各種の竪絞りを以て混彩されたるもの、若くは之に僅少の鹿の子絞り混入せる色彩を云ふ、是を細別せば左の三通りとなる

春雨絞　細き糸の如き竪絞りを云ふ。

飛入絞　一瓣の三分の一乃至五分の一程の太き竪絞りを云ふ。

半染絞　一花面又は一瓣の二分の一程の幅廣な竪絞りを云ふ。

八、鳴海絞　○松波○錦鳳其他絞り咲種に雜り咲く如き、一花面に鹿の子絞と更紗絞りの二樣が相互七分三分に混彩せるを云ふ。

三、友禪絞　○錦華山○高嶺絞りに雜り咲く如き、一花面が吹込絞七分、噴上絞三分位の比例にて混彩されたる華麗な染分模樣を云ふ。

第七項　皐月性の花葉變化

一、底白覆輪の花種が鮮明なる底白覆輪花と成らざる事あるは、樹齡の老幼と培養の巧拙にも因れど概して樹勢旺盛に過ぐる場合に多し。

一、底白覆輪の花種に、無地花は應々雜り咲けど絞り花は雜り咲かぬ者である、且つ淵白覆輪及び絞り花と、底白覆輪花とは根本的性來を異にせる者である。

一、絞り咲種に混出せし赤無地花及び淵白覆輪花の枝先には、再び絞り花の咲かぬ場合多きのみならず、其枝梢を其儘發育せしむれば、益々赤花及び淵白花殖るのみなり、又

采咲種に丸咲の混出せし場合も此と殆んど同樣なり、故に時機を見計ひ適度に剪枝せらるゝこと肝要なり。

一、絞り咲種にて自然的又は剪枝法により、恰かも接分木の如く一枝梢に同一色彩の花を咲かすことは、必ずしも不可能の事に有らねど、絞り咲種は一枝梢たりとも成べく各異りたる色彩の花を雜り咲かすを、培養の巧妙と云ふべきを以て、斯の如き接分木類似の觀賞法は避けべきである。

一、絞り咲種にて覆輪花のみ咲く花種は其樹全部赤葉なり、又青葉の絞り咲種に混出せる赤葉の所に咲く花も是と同樣淵白覆輪花の場合多し。

一、絞り咲種に混出する赤無地花の咲く葉色は絞り花の咲く葉色と殆んど同一にて青葉又は赤斑入葉の場合多し、又絞り咲種にて一樹全部赤無地花に退化せしものも右同樣にて、覆輪花の如く赤葉と成ことは稀有のことである。

一、赤葉と青葉との鑑別は、嚴寒期は其色著明なるを以て一見識別せらるれど、其他の季節には不明瞭の場合多し、且つ冬季と雖も霜及び日光に直接當らざる霜徐中に保護されし者は是又判然せざることあり。

一、皐月性中の絞り花を凡て松島と稱する人あれど、松島なる花名は今より二百二十五年前即ち元祿三年出版長生花林抄に解説されある如く、嵐山人丸其他數百種の絞り花と共に、其當時より區別されある皐月性中の一花名にて絞り花の總稱的花名には非ざるなり、而して此如き誤稱を來せし原因は種々あれど、要するに維新以後一時園藝界衰退の際、一部の鉢物師が花名不明の絞り花を單に松島と稱し、賣買せしが習慣と成たる者ならん、又皐月性中の桃色の一重花を單に皐月と俗稱するも是又同樣の誤稱ならん。

第八項　躑躅秀逸花

一、躑躅の五花

躑躅の五性を通じて各性より一花づゝ代表的秀逸花を擧れば左の如し。

万太郎鳳	輦	皐月性	孔雀葉　紅白無地と青白地鮮紅友禪絞と淵白金襴覆輪咲分　狂蘂車輪咲最大輪　清楚艶麗
蝦夷錦	霧島性	鶴卵葉	紅白無地と雪白地本紅鳴海絞と袴咲々分並蘂二重咲小輪　優美佳麗
大霧島	硫球性	巾廣砂摺葉	照濃緋色無地　長蘂一重咲大輪　華美濃艶
金蕊	中性種	孔雀葉	丹紅無地　蕊咲小輪　高雅艶麗
天司寶	西洋種	淡色地本紅淵白金襴覆輪	變種蘂花笠牡丹咲最大輪　華美優艶

二、皐月の五花

皐月性の內にて秀逸なる五花を擧れば左の如し。

万太郎鳳	輦	孔雀葉	紅白無地と青白地鮮紅友禪絞と淵白金襴覆輪咲分　狂蘂車輪咲最大輪　清楚艶麗
光輝錦	華山	孔雀葉	紅白無地と青白地又は爵金地鮮紅友禪絞と淵白金襴覆輪咲分　光琳蘂一重咲大輪　傷鬪華麗
御所櫻		孔雀葉	極薄肉色暈無地　光琳蘂一重咲大輪　高尙優美
高嶺絞		孔雀葉	淡色地本紅友禪絞　淡色地金襴覆輪等咲分　光琳蘂一重咲大輪　優美艶麗
綾錦		孔雀葉	紅白無地　青白地鮮紅鳴海絞　淵白覆輪等咲分　采咲及び蘂咲混出中輪　奇趣高雅

第九項　皐月性の品位等級

花種夥多あるを以て、當初是が撰擇に迷わるゝ初心愛翫家の參考までに、古花と新花とを問はず、佳品以上に屬する品種中の一部分を、概定せる躑躅品評標準に基づき、葉形、花容、色彩、系統など凡て實物を對點して批判撰別せる品位等級を左に掲ぐ、然り乍ら花の品位等級の撰別は十人十色の傾きあるを以て、如何に斯道に熟達せる人と雖も大過なきまでに止まり、神ならぬ身の十全を豫期することは不可能である、況や未熟菲才の吾人が單に自己の信ずる所に因て撰別せし左記の等級、只々初心家の參考の一助とならば幸甚のみ、皐月性以外四性の品位等級撰別表も有ど省略す。

掲載順序は各等級とも花名頭字のイロハ順に因れり。

逸品……一級品

鳳凰　鶯　高嶺紋　松波　二重鶴　御所櫻　綾錦　曙錦

貴品……二級品

貴公子　錦華山　紋朝顔

花の司　花吹雪　大内獅子　笑獅子　太陽　鶴の羽重　卷絹

源氏車　月宮殿　御所車　嵐山　金釆　四季籬　人丸

優品……三級品

瑞隆寺

十六夜　博多白　博多紅　花地神樂　白王獅子　錦鳳　蝶の羽重

唐錦　谷間の雪　梅ヶ枝　狂獅子　山姥　峰の雪　酒中花

緋龍

佳品……四級品

勇獅子　花桂　大盃　夜櫻　楊貴妃　聯隊旗　難波錦

松島　紅牡丹　小町　薩摩紅　銀世界　夕霧　蓑錦

緋の袴

花の品位と價格の等級は、恰かも人の貧富と人格の階級が凡ての場合に一致せる者に非ざるに等し、故に右に掲げたる觀賞本位の等級と、營業家の目錄に掲げある價格本位の等級とを對照せば、同一品にて懸隔あるもの有らんも之當然のことにて、是非を批判すべき問題に非ず、如何となれば花の價格は需要供給の均衡を標準として制定せられ品位は觀賞趣味の深淺を標準として撰定せらるゝを以てなり。

第五章　翫賞栽培の要項

園藝上の習慣語なる鉢物と云へ、盆栽と云へ、地植と云ふも皆是草木愛翫上の手段に過ぎず、故に娯樂園藝の根本義なる精神慰藉の目的より打算せば是非輕重なきは言を俟たず、隨て一鉢五錢の緣日的鉢物と雖も、一莖數百金の蘭科植物又は一樹千金の盆栽と均しく、各自日頃本務の寸暇に自ら手を下し愛培されなば貴賤平等に、語る我子と等しく、育つに從ひ花も笑へば實も熟し、百利あつて一害なき娯樂園藝の目的を到達するに何等の差異なきは是亦當然たり。

殊に今日園藝界の識者と仰がるゝ知己某伯爵を始め大部の人は、斯道の小學校なる彼の緣日へ御百度踏み、逐次粗より精に至れる連中である、然るに一部鞍馬連の裡には過去を謂はず、植物より受たる有形無形の尠からざる恩惠を無視し、且つ緣日植木が同好家增加の階梯及び園藝趣味普及の一機關なるに留意せず、滿月的ならざる盆栽及び一般鉢物には、精神慰安の要素が含蓄せざるかの如き、娯樂園藝の本末を顚倒せる極端なる自己本位の井蛙觀を臆面なく謳歌し、徒らに通人振る木葉天狗應々見聞せらる、斯の如き自繩自縛的の輩有が爲め、盆栽は骨董物なり贅澤物なり閑人的玩具なり等の誤解を招くに至る、是單に盆栽家のみならず一般園藝界の爲め惜嘆すべく、且つ憫むべき行爲と云ふべし。

第一項　鉢物と盆栽との區別

一般工藝品の內にて、而かも同一用途の物品にて數學的定義はなけれど、審美眼に因て區別せられたる、美術工藝品と普通工藝品とあるが如く、園藝上の鉢物と盆栽の區別又然り、左に是が要點を揭ぐ。

一、鉢物　成育年限の老若と容器の大小深淺を問ず、比較的簡易の觀賞趣味と培養趣味より成れる普通工藝品的鉢栽を俗に鉢植又は單に鉢物と稱ふ。

一、盆栽　懸崖物の如き特例を除き、多くの場合に淺き盆裡に其植物本來の風韻を巧妙に縮圖し、且つ容姿と鉢と植込が鼎脚的に調和し、以て其周圍に於ける自然の情趣を暗々裡に連想爲し得る、即ち掌大の盆裡に其植物の自然美を遺憾なく發揮せんとする複雜至難の觀賞趣味と培養趣味より成れる美術工藝品的鉢栽を俗に文人式盆

栽又は單に盆栽と稱ふ、從て凡ての草木は鉢物と爲し得れど、盆栽に適合せる植物は施術者技倆の優劣に關せず一部分の草木に制限さるゝ氣味あるも之亦當然のことなり。

第二項　鉢

培養上より云へば其樹積に適應せる鉢なれば可なれど、觀賞上には骨董品と異るを以て、鉢の新古及び價格の高低は重要視するの要なけれど、樹容と鉢型、花色と鉢色、植込方の調不調は其樹の觀賞價値に懸隔を及ぼすものゆゑ、適度の注意を拂ふを要す、殊に盆栽に於て然りとす。

一、花色と鉢色　特例を除き無模樣の鉢を可とし、花色と鉢色と類似せざる樣留意することと肝要なり、躑躅として凡ての花色に共通的にして而かも最も好く調和する鉢色は支那鉢として瑠璃、均窯、青交趾である、海鼠は大概の樹木に可なれど常綠樹及び花物には調和せぬ場合多し、日本鉢も右に準じ撰用せらるゝを好とす。

一、樹容と鉢型、植込方飾付と卓其他觀賞上の附帶事項あれど、一般鉢物又は盆栽と大差なきを以て省畧す。

第三項　養土

養土は左記の內、何れにても便宜撰用されなば大過なからん、然れど排水を佳良ならしむる爲め、鉢の淺深により砂の比例を幾分增減さるゝを可とす。

一、適土	腐葉土	七分	山砂	二分	葉灰 一分
一、代用土	乾溝土	七分	川砂	二分	葉灰 一分
一、代用土	畠土	七分	川砂	二分	葉灰 一分

第四項　施肥

一、油粕一升に水一斗の比例にて水甕に入れ蓋を爲し、時折攪拌し三十日以上腐熟せしめし液肥を寒中に調へ置き、施肥の際右液肥の上水一升に水一斗の割合に稀薄し用ゆ、重過燐酸肉骨粉其他化學肥料の施肥法もあれど省畧す。

一、施肥は春彼岸頃と落花後と秋彼岸頃との三期に各一周間を經て二回づゝ與ふれば

充分なり、然れど前記比例より一層稀薄なる眞水に等しき者を極寒極暑を除き一周に一二回づゝ施肥し得るならば是に勝れることなし、但し植替後二周以内即ち充分根付かざる間は施肥せざるを可とす。

第五項　灌水

一、灌水は其樹に對する四圍の事情の如何により加減し、當時乾濕の中庸を得るべきよう心掛けべきである、而して普通は午前十時頃と午後三時頃、冬期は日中を可とす、且つ四季を通じて日中は不可なけれど、夕刻の灌水は特例を除き爲さゞるを好とす、之枝間の伸長する氣味あるを以てなり。

一、灌水すべき水は、外溫と大差なき汲置水を可とす、殊に夏期日中に汲立の堀井戸水を灌ぐが如きこと度々あるときは根腐を來す憂あるを以て斷じて避けべきである、是單にツヽジ而已ならず鉢栽培の草木皆然り。

一、簡便灌水法　置場所及び鉢の深淺にもよれど、暑中にても終日降雨の翌日は灌水の要なき場合多きが如く、灌水時に當り鉢底まで充分濕る樣與ふれば、頻繁に乾燥せざる者ゆゑ隨て朝食前後一回の灌水にても左程障害を及ぼす者に有らざるを以て外出勝の人は此方法を採らるゝを便利とす。

第六項　置場所

一、四季を通じて一日六時間以上日光の直射する處なれば、鉢の深淺に不拘、夏季日中の蔭養、冬期霜除等の手數を煩はさずとも、樹勢に左のみ障害を及ぼす者にあらず。

一、然り乍ら病的作用の者、植替後活着不充分なる裡、尺餘の降雪地、寒風の强烈に當る置場は、一般鉢物又は盆栽と均しく樹梢及び鉢の損傷を避る爲め、適度の保護を要す。

第七項　整形

一、鉢栽培としては、直幹、相生、叢生、懸崖、石附、鉢溢、甲吹、傘作り、見臺作り、野生作り等各人の嗜好により何れにても不可なれども、盆栽としては「爛熳たる花容の全態を一目の許に觀賞せられ、且つ懸崖絶壁若くは深山の苔蒸したる巖石に自生し、枝梢下垂して溪流を望める、神仙的風致を聯想せしむる懸崖作」が最も觀賞に的するようである、此に

次では野趣旺溢せる叢生作りか又は鉢盆作りが、仕立方比格的容易なる而已ならず、躍躍本來の風韻を美觀的に發揮せる者と思はる。

一、樹容を整ふる爲め枝梢に針金を捲くには、幹元より梢端に向へ曲げんと思ふ方向に捲込べきである、針金は燒銅線を其儘又は紙を卷き用ひ、太幹を矯めるには幹を麻又は打藁にて卷き充分捻ぢ和らげおき、樹皮を剝き若くは枝枯を損傷せざるよう徐々と行ふべきである、季節は樹液の流動盛ならざる春彼岸頃を可とす、萬一損傷のこと有も他の季節より治り易く隨て枝枯を起す憂少なし。

一、樹容を亂す怖ある無用の發芽を摘除し、併せて徒長枝を剪み切るを要す、但し翌年開花すべき花蕾は秋芽には着ざるを以て、例外を除き剪枝は土用芽までに止むるを好とす。

一、整枝法拙劣なりし爲め、枝梢徒長し恰かも多行松を見るが如き、懷枝少き木と雖も、養土施肥灌水に注意し樹勢を旺盛ならしめ、翌年花後直ちに植替と共に適度に剪枝を行へば各枝梢より懷枝を生じ舊態を一新繁茂するものである。

第八項　開花前後手當

一、左記の手當を行へば三週日以上觀賞せられ樹勢の衰弱を防ぎ、晩秋の花着又一層良好なり。

イ、破蕾間際に植替せざること。ロ、開花中は施肥を避け灌水を充分與ふること。ハ、强烈の日光風雨に當ざること。ニ、夜間は露出すること。ホ、凋花は軸基より摘取り結實せしめざること。ヘ、摘花後は肥培すること。

第九項　破蕾促進手當

一、嚴寒期に開花を促すには、六十度前後の溫度を保續せる溫室內にて培養せば、全國何處にても四十日以內にて破蕾し、普通室內にても半月近く觀賞せらる、此目的には琉球性、霧島性、西洋種の如き早咲種を好とす。

一、溫室內の空氣の乾燥せざるよう注意せば、施肥灌水は春季手當と殆んど大差なし、又或特殊の目的の爲め開花を遲れしむるには、普通開花期の一と月以前より是と反對

の手當を爲すにあり。

第十項　植替

一、普通植替は酷暑嚴寒以外何時にても不可なけれど、地植又は深鉢植を淺鉢に植替する際、其外都合により大部分の根を切取る如き手荒きことを爲すとも比格的安全なる季節は、落花後と入梅初期を第一とし、次は春秋の彼岸を好とす。

一、植替は普通一年おきにて可なれど、灌水又は降雨の時排水不充分にして、鉢面に永く停滯する場合は、其儘放任せば根腐を來すを以て臨時に行ふの要あり。

一、植替時には、古き髭根は指先にて充分摘取を好とす、且つ太根は不可なけれど髭根は可成剪刀を用ひざるを可とす、又夥多しく根を切去りし時は之に準じて剪枝を行へ、以て樹梢と根との均衡を計るを要す。

一、上方地方の新木を鉢揚なす時は、其樹の根元に附着せる荒木田質の强粘土を幹基丈は幾分避け、其他は凡て竹箸にて根を損せざるよう、徐々と取捨てたる上新養土と植替せらるべし、然なくして其儘鉢揚なす時は兎角排水不良のため根腐を來す憂あり。

第十一項　繁殖期

一、挿木、壓條、株分、接木、實生及び人工媒助法は一般植物と大差なし、季節は實生は春彼岸其他は凡て入梅初期を最も良好とす、接木の臺木はツヽジ中樹勢最も强健なる琉球性を可とす、花蕾の附着は壓條、株分、接木は其年より、挿木は翌年より、實生は三年目より花蕾を發生するものである。

第十二項　害虫

一、種類は蕾喰虫、白羽根蚜虫、尺蠖虫、芽喰虫、貝殼虫、蓑虫、猫蛙、蚯蚓等である、驅除法として無害有効と認む可は蚤取粉を十匁に水二合を混加し、一晝夜の後片布にて濾過した除虫菊浸出液を、使用時に當り六七倍に稀薄し撒布するを最も可とす、煤煙又は貝殼虫等にて木肌の汚れたる時は、豆腐湯を冷却し房楊枝にて掃除せらるべし、要するに平素灌水時に幹枝、葉間に害虫の存否、鉢面に虫糞の有無、排水の加減等を見廻り、繁殖せざる裡に取除くこと肝要なり。

一、害蟲の内にて最も惡む可きは、茶褐色を帶べる長さ二三分の蕾喰蟲である、此蟲は八月中旬より初冬に至る間、數層の霜徐花皮の側面に罌粟粒程の穴を穿ち、其中心にある花蕾のみを侵喰す、樹勢には障害なけれど翌年の開花を見る能わざるを以て、見當り次第捕殺するを要す、然れど繁華の市街地に於ける鉢植には稀にして、人糞肥料を多用する郡部に比格的多く發生する氣味あり、此蟲に就ては同好家間に開て空しき玉手箱なる、浦島式の珍談應々あり

實驗躑躅之栞　終

跋

本栞敍述を終るに際し、古來よりの詩歌及び文學的遺稿、學識一世に名高かりし貝原益軒先生を始め古今同好家諸氏の逸話珍談、舊幕時代の躑躅相撲見立番附、名所舊跡及び各生産地の古事來歷、各地方花名稱呼の異同對照、天然及び人工的花容色彩の變化、親木と出物の系統、葉又は蕾に因て花態色彩の鑑別、花名命銘及花容解說心得、躑躅品評審査標準其他培養法、繁殖法幷に觀賞上に就て興味ある多々の事項あれど、繁務の微暇に染筆する事とて容易に完結せざる而已ならず、日頃愛培の花も時節を忘れず既に笑ひ初め、日々に觀賞期に入りし折柄、到底續稿の餘裕なきを以て乍遺感此所に禿筆をとゝむ云爾。

現代躑躅銘鑑

秋元新藏稿

一、皐月性之部

一重無地咲

六 御所櫻 薄肉色花容最モ高尚大々輪貴品

二四 一月宮殿 雪白色花瓣厚ク丸葩花輪絶大美事上々

六 十六夜 薄鴇色花輪豐大滿月咲上々花

五 高千穂 青白色大輪四五瓣ヨリ八九瓣咲キ分ケ稀ニハ細采モ咲ク美妙

五 太陽 光輝アル本緋丸葩花輪絶大花容高尚

八 博多白 雪白色丸葩花容高尚頗ル大輪

八 入日の海 鴇色ボカシ底ニ濃紅鹿ノ子アリ入日ノ海ヲ偲バセル花ニ波狀ヲ有シ大輪

九 夕霧 醉紅色花輪絶大美事上々艶麗

九 高砂 薄藤色大輪開花後小鍬寄リ縮ミ美觀

九 薩摩紅 濃照紅長葩深切咲大輪

九 夕榮 鴇色大々輪恰カモ夕日ノ映ズルガ如ク優美

九 夜櫻 藤紫大々輪花容高尚上品

九 富士霞 薄藤色瓣端山形ヲナシ大々輪上々

十 大盃 桃色大々輪花瓣厚ク丸葩花姿旺盛

八 博多紅 照濃紅色丸葩大々輪花容高尚

九 紅と雪 濃紅色大輪葉ニ白ノ斑點ヲ彩リ美觀

十 銀世界 青白色大輪上品

九 朝顔 藤紫大輪花形朝顔狀ヲナス

十 珊瑚閣 濃照紅丸葩大輪

十 都の花 鴇色長花大輪

十 花大臣 本紅色皐月性中最モ大花

十 五大洲 濃々紅色大々輪

十 東鏡 本紅色長花大輪

十 日の出鶴 鴇色長花大輪

九 紫玉 紅紫一重丸葩大々輪花容高尚

十 王照君 本紅色大輪

緋の司 濃緋色大々輪

十 都紅 濃紅色花容引締リテ上品

十 千歲山 本紅大々輪

十 猩々紅 濃々紅大々輪花形宜シ

十 春日野 本紅色大々輪美觀

十 大江山 濃紅長葩大々輪

十 桃千鳥 桃色長葩大輪

十 古錦 濃紅色奇品

十 福包 鴇色丸葩大々輪

一重絞り咲

六 錦華山 白地鮮紅絞淵白咲分色彩他ニ比ナシ花容高尚最上(十輪音羽等ノ稀アリ)

四 御代の春 薄曙色ボカシ大々輪花容他ニ比ナシ

二 譽の錦 鴇色ボカシ地ニ薄紅濃紅絞リ大々輪稀品上々花

二 曙錦 白地ニ紅筋入大輪花容上品

六 松浪 白地ニ本紅絞二三瓣ヨリ十二三瓣咲上分長葩細采咲内獅子外獅子色々咲キ交リ七五三飾ノ名アリ

六 高嶺絞 鴇色地ニ青白ヲ帶ビ濃紅上々絞大花貴品

六 人丸 柿色地ニ丹紅絞リ白茶絞リ五六瓣ヨリ十二三瓣咲分大々輪貴品

六 嵐山 2 鶸色地ニ濃紅上々吹掛絞リ大々輪貴品

七 花地神樂 3 粹白地ニ本紅鹿ノ子絞上々花

六 夜の雨 薄鶸色ニ濃紅絞リ丸葩大花上々

七 千代田錦 雪白地ニ紅ノ立絞リ吹掛絞リ上品

七 錦鳳 3 白地ニ紅絞リ半染赤無地淵白吹掛絞リ五彩咲キ交リ大花上々花附蕾モ宜シ貴品

八 東明錦 薄樺色地ニ濃紅上々絞リ色彩他ニ比ナシ

八 源氏錦 2 本紅色淵白鶸色ニ濃紅絞濃紅ニ白絞リ大花

七 蜀紅錦 雪白地ニ上々紅絞リ白赤淵白等能ク咲キ分ク大輪貴品

九 唐錦 3 白地ニ紅絞及ビ紅ニ淵白咲分色彩優美

七 七小町 白地ニ紅ノ伊達絞リ色々咲分上花

九 鳴海錦 青白地ニ紅藤色絞リ花ニ波狀ヲ有スル大輪

九 神樂岡 青白地ニ紅ノ鳴海絞リ大輪

九 松島 4 白赤絞リ大輪絞リ咲中ノ古花ナリ

四 日月星 本紅底白淵白星入大輪上々貴品

四 深山の雪 本紅雪白深覆輪大花上々

七 瑞隆寺 2 本紅色雪白大覆輪大花上々見事（古代錦ノ所アリ）

七 聯隊旗 4 本紅淵白五瓣咲五光ノ輝クルガ如ク美事上々花附モ亦宜シ絶品

八 峯の雪 3 本紅淵白大々輪色彩優美高尚

八 小町 4 鶸色ニ淵白紅ノ立絞リ花容愛ラシク上品

五 貴公子 上底白紫覆輪結樓咲花容色彩高雅貴品

九 谷間の雪 3 丹紅底白丸葩大々輪優美上々

八 酒中花 3 本紅底白赤無地好ク咲分大花上々

八 大神樂 丹紅底白丸葩大々輪上々貴品

九 楊貴妃 4 濃紅底白赤無地曙無地五六七瓣咲キ交リ色々咲分優美花容愛ラシク上品

一重底白及淵白咲

一 不夜城 上丹紅底白花裏ニ白筋入大々輪上々貴品

三 鳳凰 雪白ニ本紅絞リ丸葩大々輪色彩佳絶上々花

四 白王獅子 3 青白色花裏ニ獅子アリ大々輪上々

四 玉獅子 鶸色地ニ底紅淵白花裏ニ獅子アリ大輪

三 鶴の羽重 2 雪白花裏ニ青筋入大々輪上々貴品

六 狂獅子 3 雪白地ニ本紅絞花裏ニ獅子アリ狂咲貴品

五 鴇の羽重 鶸色淵白ボカシ紅ノ立筋入大々輪上々貴品

六 大内獅子 2 白地ニ紅絞花裏ノ獅子大ニシテ大々輪（オソラクノ厚葉トモ稱ス）

七 絞朝顔 上 醉白色ニ藤紫絞リ醉白無地紫無地及袴咲交リ大々輪優美上々貴品

五 源平 上葩本紅大々輪下葩雪白袴咲貴品

四 梅ケ枝 3 鮮紅小輪梅花ノ如キ上品ナ花容

五 花桂 4 雪白地ニ紅絞花裏ニ蕊アリ大々輪

六 二重鶴 上 鮮紅ニ雪白絞白地ニ紅絞大々輪上々貴品

六 源氏腰簑 淡色地本紅絞淵白覆輪簑附貴品

七 玉冠 鮮紅色大々輪優美上々

七 蓑錦 4 白地鮮紅鳴海絞花裏ニ簑附上々花

八 八重朝顔 藤紫大々輪花容朝顔狀ヲナス上品

七 緋の袴 4 濃紅大輪花裏ニ袴アリ上々花

袴咲

一 谷間の飾 本紅底白赤無地下葩ハ雪白ニ紅糸筋入上下紅白咲分大々輪上々貴品（二重咲及ビ簑掛）

一 花の司 2 本紅底白二重咲簑掛咲交リ大々輪色澤佳絶上々貴品

采咲及切咲

一 綾錦 上 雪白地ニ紅絞及ビ白赤無地ノ采咲又ハ葩咲等咲分稀有ノ佳品

六 金采 2 本紅十瓣細采咲奇花雅品

三 都獅子 鶸色大輪ニシテ花裏ニ獅子アリ上々貴花

六 難波錦 4 白地ニ紅絞雪狀采咲奇花絶品

五 白龍　青白采咲枝幹屈曲シテ龍頭ノ如ク奇品

七 關守采　本紅掌狀采咲大々輪奇花高尙

六 龍頭車　濃鴇色切咲又ハ丸咲枝幹屈曲シテ龍頭ノ如シ貴品

七 風珊瑚采　鴇色五瓣采咲一葩ヅヽ散花ス奇品

十 本紅五瓣采咲一葩ヅヽ散花ス奇品上々

牡丹咲及亂曲咲

二 花吹雪　2 雪白地ニ本紅鹿ノ子絞リ牡丹咲又ハ花中ニ獅子出デ稀品　緋紅地ニ白絞牡丹咲及ビ亂曲采咲十六七瓣細采丸葩咲分美事上々最近ノ新花

二 亂猩々　

六 卷絹　2 本紅花笠咲花中ノ葩卷キ狂白絞リ入奇花上品

七 山姥　3 濃紅花笠咲又ハ菊咲花中ノ葩卷狂咲大輪

七 群雀　本紅大々輪花眞ノ先端ニ鴇色ノ小花片ヲ附ケ恰カモ群集セル雀ノ如ク奇花優美

九 笑獅子　2 鴇色二重三重花中ニ丁字出デ又花眞ノ先端ニ小花片ヲ附ケ色々咲分花容笑フガ如ク上々

九 濃紅一重八重花中ニ丁字出デ又ハ花眞ノ先端ニ花片ヲ附ケ恰カモ飛龍ノ舞フガ如ク奇花

九 龍　3 青白采咲枝幹屈曲シテ龍頭ノ如ク奇品

九 勇獅子　4 濃紫色一重八重花中ニ獅子出デ花眞ニ小花葩ヲ附ケ色々咲分大輪花委旺盛ナリ

九 紅牡丹　7 濃紅八重牡丹咲大々輪上々貴花

十 紅萬重　丹紅色菊咲大々輪花期頗ル永シ上々花

九 關守　本紅丸葩牡丹咲又ハ亂曲咲奇花上々

車輪咲

三 鳳輦　上ノ車咲大花上々一名（萬花錦、錦牡丹、白王殿等ノ稱アリ）　青白地ニ紅絞八九瓣ヨリ二十瓣近ク

三 源氏車　2 濃紅ニ白ノ大覆輪又ハ赤無地咲交リ八九瓣ヨリ二十瓣近ク車咲大花（日ノ出錦、八重高嶺ノ稱アリ）

四 御所車　2 濃紅色八九瓣ヨリ二十瓣近クノ車咲ニシテ極大々輪上々花（日ノ出ノ稱アリ）

四季咲

二 蝶の羽重　3 濃紅色二重三重又ハ丁字咲四季間斷ナク開花ス最モ大花上々

六 四季籬　2 白紅絞咲交リ八重大輪四季咲八九月ヨリ翌年六月迄咲キ通ス優美上々

三 源氏籬　鴇色地ニ濃紅絞淵白二重四季咲大々輪

六 四季高嶺　鴇色ニ白覆輪ヲ掛ケ白赤立絞リ星入二重咲ニシテ大々輪四季咲ノ貴品

七 紅籬　本紅二重四季咲大々輪上々花

六 緋威　濃々紅色八重劍葉ニシテ四季咲大輪稀品

一、霧島性之部

新花及優等品

一 御旗錦　醉白地ニ紅絞リ一重大輪葩先圓ク至ツテ豐美

一 紫式部　紫色二重猪口咲丸葩四季咲大々輪上花

二 吉見ヶ嶽　鮮紅色底曙白二重咲大々輪至ツテ豐美

二 發心櫻　綠紅色底白二重上花

二 滋賀の浦　藍紫紅底雪白一重極大々輪

二 大和霞　煤竹色底白一重大輪色彩奇異珍種

三 旭鶴　淵淡紅底曙白二重咲大輪高尙

三 富士の旭　淵上々紅底雪白色ニシテ二重咲大輪

三 桔梗の舞　淵紫色一重大々輪花容麗麗

三 大内獅子　白地極紫絞花裏ニ獅子アリ優美

三 奈良の都　薄櫻色二重咲ニシテ最モ大輪見事

三 都獅子　白地薄紫絞花裏ニ獅子アリ優美

四 舞孔雀　濃紅色深切離咲掌狀熊手ノ如ク亂曲咲尤モ大々輪上花

四 紅麒麟　濃照紅二重中輪

四 九重　綠紫白二重咲上々輪

四 筆塚　櫻色二重猪口咲大々輪貴品

四 殿り　薄紅本紅絞一重莖長ク且ツ白シ

五 漣　薄紅色一重狂咲

四 蝦夷錦　極雪白本紅絞二重大々輪見事稀咲々分上々花

五 蜀江錦　雪白上紅絞リ二重咲大々輪

五 左近　櫻色一重大輪色變リ最モ奇品

五 旭の港　眞紅色二重大輪
五 大納言　丹紅色底曙白二重大輪
五 丹項　丹紅色底曙白二重大輪
五 雛鶴　丹色二重大々輪
五 紀念　薄紅色二重大輪
五 以呂波山　淵源紫底白一重大輪貴品
三 吳服絞　青白地本紅立絞二重大々輪
三 寶玉　淵丹紅底白二重咲上々美花
三 旭の空　本紅色二重咲淵紫色合上々
三 時雨の錦　白地ニ小絞リ二重壺咲大輪
三 綾錦　白地ニ薄紫絞二重大々輪
五 大空　極濃紅底白二重咲大輪上々
五 昌三櫻　丹色底曙白二重咲大輪

五 雲井鶴　梅薄色二重咲大輪

壹等品

七 雪の曙　薄紅色二重咲大輪
七 白妙　白地大輪眞ニ珍花
七 石橋　上紅一重猪口咲大輪
七 紫鳴海　雪白色濃紫絞一重大々輪
七 君ケ代　薄紅底曙白一重大輪
七 桂の花　濃藤色長蕋一重咲上花
七 郭公　曙白一重咲大輪
七 三光錦　醉紅地瓜白本紅絞リ大々輪
七 常夏　白地ニ本紅立絞リ一重大輪見事
七 小城の踊唐兒　濃紅色一重大輪
七 通天　丹紅色一重咲大輪

七 錦重　白地本紅絞二重咲上花
七 吾妻鏡　薄紅色二重大輪
八 小城の兒遊　濃紅色一重咲花附宜シク絶品
八 古金欄　淡紅地ニ本紅金欄絞大々輪
八 千代の曙　濃桃色二重咲大輪
七 練絹　青白地ニ紅絞一重蕋一本ニシテ奇品
七 獅子頭　鮮紅色一重亂咲枝幹屈曲害生シテ獅子ノ如ク實ニ壯麗ナリ
七 高砂　櫻色二重咲大輪上花
七 今猩々　濃紅色二重咲大輪
七 櫓猩々　濃紅色櫓咲大々輪
八 老の目覺　紅紫色一重大輪
七 岩戸鏡　醉紅色二重大輪
八 福笑　薄紅色一重咲一本眞大輪

現代勝踊銘鑑　鶴島性之部

七 吳服　淡紅地本紅絞リ瓜白大輪
七 御所櫻　櫻色一重咲大輪
八 鴇の羽重　鴇色底紅二重大輪
八 櫻鏡　櫻色一重大輪
八 麒麟　濃鴇色二重朝顔咲大輪
八 紅葉重　淡紅色二重咲大輪
八 綾服　白地紅葉絞一重大輪
八 雪の駒　雪白色二重咲大輪
八 錦孔雀　白地紅絞一重咲大輪
八 鳴海重　白地本紅絞二重咲大輪
八 田子の浦　本白色一重大輪
八 未摘花　本紅色一重咲大輪
八 龍門　青白色二重咲大輪

八 繪の姿　濃桃色一重咲大輪
八 大和錦　白地本紅絞り一重咲大輪
八 鳳凰　醉白地本紫一重咲小絞り上花
八 相生　淡桃色二重咲大輪
八 管の糸　桃色一重咲大輪
八 大和櫻　薄紫色一重大輪
八 櫻司　淵淡紫一重大輪上々花
八 新玉　本紅色一重上々花
八 總角　紅紫色一重大々輪
八 花咲雪　雪白色本紅絞り一重上々花
八 養老　青白色一重咲長花雅品
八 美人醉　極淡色一重咲大輪
八 綾の冠　紅紫色一重大輪

八 櫻狩　極薄色一重咲大輪
八 玉手箱　白地ニ薄紅紫絞り一重咲大々輪
八 小亂れ　照紅色一重咲大々輪
八 櫻重　絲薄紅色二重咲大輪
八 醉楊妃　淡丹紅色一重咲大花
八 粧ひ　薄色一重咲大輪
八 鳴海絞　青白地ニ紅絞り上々花優美
八 亂曲　濃紅色一重咲大輪
八 笑顔　桃色一重咲大輪
八 兒重　本紅色二重咲大輪
八 暮の雪　雪白色二重咲大輪
八 安西高蒔繪　白地紅紫絞一重大輪
八 若楓　鮮紅色一重大輪

八 新宮城野　桃色二重咲大々輪
八 嵐山　醉白色一重咲大輪
八 裾濃の糸　濃紫色一重咲大輪
八 大和絞　白紅絞り一重咲大輪
八 吾妻潟　薄紅色二重咲大輪
八 新青海　青白色二重咲大々輪
八 扇重　薄紅色二重咲大輪

貳等品

八 八重猩々　濃紅色八重咲大輪上花
九 本霧島　本緋色一重咲大輪優等花
九 松の雪　薄紅紫色一重大輪
九 夜櫻　雪白色一重咲大輪
九 都絞　白地紅絞り色一重咲大輪

九 照君　薄紅色一重咲大輪
九 花遊　薄赤色一重咲大輪
九 照姫　濃丹紅色一重咲大輪
九 稲妻　白紅絞り一重咲大輪上々花
九 此花　本紅底曙白色一重咲大々輪
九 寐屋の扇　桃色一重咲大輪
九 緋威　本緋色一重咲大輪
九 新宮城野　濃紫色二重咲大輪
九 高蒔繪　白地紫絞一重咲大々輪
九 窓の月　雪白色一重咲大輪
九 後世通天　樺紅色一重咲大輪
九 全世界　薄色地ニ濃紫絞一本眞見事

參等品

九 玉櫻　薄紫色一重咲大輪
九 霞ケ關　本薄色一重咲大輪上々
九 名社の關　醉白地一重咲大々輪
九 難波潟　綠紅色一重咲大輪上々花
九 萬代　白色一重咲大々輪
九 花筏　櫻色一重咲大輪
九 玉葛　桃色一重咲大輪
九 筆捨山　濃紅色一重咲大々輪
九 虞美人　綠紅一重咲見事上々
九 尾の上　淡紅色二重咲大輪
九 金城の壁　丹紅色二重咲大輪
九 旭　濃桃色一重咲大輪
九 雲霧　桃色一重咲大輪

九 萬紅葉　丹紅色二重咲大々輪
九 胡蝶の舞　紫二重咲小輪
九 雲の上　丹色一重咲大輪
九 初被　紅紫色一重咲一本眞大輪
九 舞の袖　紫掛ル淡紅色一重咲大輪
九 流星　雪白地紅絞り一重咲大輪
十 豐霧島　紫紅色二重咲大輪
十 雛模樣　桂色一重咲大々輪奇品
十 小式部　綠薄紅色一重大輪
十 花形見　紅紫色一重咲大輪
十 東山　薄紫一重咲大輪
十 摺墨　暗紫色一重咲大輪
十 花車　紅色一重咲奇品

十 東雲　醉白色一重咲大輪
十 思寐　紫色一重咲大輪
十 玉の綠　紅紫色一重咲大々輪
十 兒遊　薄赤色一重咲大輪
十 日の扇　黑紅色一重咲大輪
十 紫籠　薄紫色一重咲大輪
十 八ッ橋　紫色一重咲大輪
十 羅城門　照紅色一重咲大輪
十 篝火　煙赤色一重咲大輪
十 紅筆　日紅一重咲大輪
十 乙女　綠紅色一重咲大輪
十 新臺　濃丹色一重咲大輪
十 櫻小町　綠紫一重咲大輪

十 玉の臺　薄紅色一重咲大輪
十 舊宮城野　桃色二重咲大々輪見事
十 桐壺　薄紫色一重咲大輪上々
十 浮む瀨　丹色一重咲大輪
十 早乙女　桃色一重咲美花
十 勢多の入日　綠薄紅一重咲大々輪
十 初霧島　薄紫色早咲大々輪
十 八重霧島　紅色八重咲大々輪
十 泰山白　雪白色一重咲大輪艷美
十 花の關　綠紅色一重咲鮮長ク珍花
十 日の出霧島　本紅花一重咲密生咲大々輪豐美
十 東絞　薄紅地濃紅絞り大輪
十 紅霧島　鮮紅色一重咲大々輪上々花

十　早生霧島　赤紅色早咲大輪

三、琉球性之部

新花貴品

六　鳳凰殿　薄鴿色ニ紅紫絞リ白覆輪雫掛及ビ二重ノ咲分大花優美高尚

六　錦の森　白地ニ濃紫ノ太筋入又ハ吹掛絞紫ニ白覆輪等咲分二重咲大輪

六　初霜　薄鴿色地ニ紅紫ノ絞白覆輪極早咲ニシテ大々輪上々美花

六　錦の司　白地ニ濃紫ノ太筋入又ハ吹掛絞白無地紫無地咲分大々輪

六　紫天龍　紫色一重咲大輪枝幹屈曲シテ龍頭ノ如ク奇枝極大々輪貴花

六　大霧島　濃々本紅色一重咲直徑五寸位ノ大花葉濃緑色ニシテ見事上々花

壹等品

七　唐躑躅　濃紅色大々輪ノ絶品

七　青花　青緑色ノ花ニシテ大々輪奇品

八　紫麿　藤紫色八重咲且ツ花眞ニ麿ヲ生ズ

九　大紫覆輪　花ハ濃紫色大輪ニシテ葉白覆輪見事

九　京鹿の子　赤紫色鹿ノ子絞大々輪

九　飛鳥川絞　桃色地紫絞リ大輪上々花

九　峯の松風　白地ニ薄紫ノ筋入大輪

九　大紫　濃紫色最大輪

九　白瀧　青白色八重咲大々輪

十　白牡丹　雪白色牡丹咲大輪

十　江戸紫　淡紫色廣瓣厚ク大輪

十　靜崖　薄紫色極細瓣咲大々輪佳品

十　琉球紫　白地ニ紅紫絞リ大輪

十　駿河萬重　紫色狂咲大輪見事上々

十　藤牡丹　藤色千重咲大輪

十　玉屋紫　鮮明ナル紅紫色大輪

十　若鷺　移リ白二季咲奇品

十　村雨　暗紫色極大々輪

十　曙琉球　咲出シ薄鴿色後白ニ變花ス奇品

十　三河紫　紫色最大輪美妙

十　大淀　淡紫色一重咲大輪

十　飛鳥川紫　紅紫色極早生咲大々輪

十　三笠山　紫色大々輪實ニ壯觀

十　薄よう　薄紫色大々輪

十　色勝　薄藤色チ帶ビ大々輪

十　若紫　薄紫色大輪

十　有明　白地ニ薄紅チ彩ル奇品

現代躑躅銘鑑　中性種之部

貳等品

十　峨眉山　藤紫色一重咲瓣長ク絶品

十　白琉球　雪白色一重咲大々輪上々

四、中性種之部

壹等品

六　金芯　花瓣全ク無ク丹紅色ノ蕋ヲ以テ一花ヲ成ス奇花

六　天ケ下　濃桃色丸咲鬣咲蕋咲ノ三樣ニ開花ス

六　花の宴　本紅色丸咲鬣咲蕋咲ノ三樣ニ開花ス

六　手牡丹　鴿色萬重牡丹咲大々輪上々

六　十重車　藤色牡丹重ネ咲大々輪優美

六　黑船　葉顏ル大形ニシテ鴿色廣瓣大々輪貴品

六　見染車　七變化トモ稱シ咲出鴿色漸次青緑色ニ變ル小輪一花百日間保ツ奇趣旺溢

貳等品

六 羅漢　鶴色深切離咲葩長四五寸ノ亂曲咲　五 淡紅淵白丁子咲最大輪

七 豐後錦　本紅色菊咲牡丹花中ニ白ノ後絞大輪　五 桃色淵白八重最大輪

六 白花雲禪　雪白色二重咲極々小輪雅品　五 緋紅萬重最大輪

八 雲嬋　薄藤色一重極々小輪雅品　五 濃紅八重最大輪

八 寒躑躅　紅色四季咲能ク寒氣ニ堪ヘ開花ス　五 青白八重最大輪

八 立千重　濃丹紅色千重牡丹咲大々輪　五 淡樺淵白丁子咲最大輪

八 四季紫　紫一重咲大輪四季咲秋季ノ花ハ落葉ニ至ル迄鮮明ニ咲續ク　五 本紅淵白八重最大輪

十 淀川　濃紫萬重咲ノ大輪花密生早生咲也　五 白地底鶴色暈八重大輪

十 黃蓮華　黃色一重極大々輪ニシテ花附最モ宜シク密生咲切花挿花等ニハ最適當ス　五 マダーム、メリー、ロッセル　鮮桃色八重最大輪

十 樺蓮華　前種ノ樺色ニシテ一重咲本種モ極大々輪前種ニ劣ラズ密咲ニシテ花附ヨロシ　五 マダーム、バンダ、クレスセン Madam vander Cruysen.　紅紫丁子咲最大輪

十 紅蓮華　本種モ赤蘇花咲紅色一重極大々輪密生咲成長旺盛ナレバ切花ニ好適ス　五 マダーム、ペトリツク　濃紅八重最大輪

五、西洋種之部

五 インプレス、オフ、インデヤ Empress of India.　淡色淵白丁子咲最大輪

五 ヘーレン、シャナ Haerenslana.

五 ベロニカ Velonica.

五 ドクトル、モーレー

五 ラアフエル

五 タリスマン Tallaman.

五 エーバーバニヤ Avervanesna.

五 エンペロア、デー、ブレツセル

五 マダーム、バンダ、クレスセン Madam vander Cruysen.

五 マダーム、ジヨン、バーバネー

五 マダーム、モーレー（天司寶） Madam Moruce.

五 マダーム、メリー、ブランシヨン　青白八重最大輪

五 ブロフエセル、ウオルター　本紅淵白最大輪

五 アンナ、ホルチツク　雪白丁子咲最大輪

五 メモールド、エルバンホーテ　濃紅八重咲最大輪

五 シモン、マードナー Simon Marduer.　本紅八重最大輪

五 ジヨン、テーデー、ドリウエルン　淡色地本紅絞淵白八重最大輪

五 シユリアス、ロツカース　濃紅丁子咲最大輪

五 ジエー、エム、ケラー J. M. Keller.　本紅亂曲咲最大輪

五 ビー、バーニヤ B. Vervaneana.　緋紅八重最大輪

現代躑躅銘鑑 終

現代躑躅銘鑑　躑躅價格準

◉躑躅價格標準

銘鑑各花名の上に記せる數字は、價格等級の番號なり、左に各等級の小苗標準を掲ぐ

一級品二圓　二級品一圓五十錢　三級品一圓　四級品七十錢　五級品五十錢　六級品三十錢　七級品二十錢　八級品十五錢　九級品十錢　十級品五錢

一中苗は右小苗の二倍額、大苗は小苗の三倍額なり

一小包郵送料は荷造費共各十本迄、小苗は二十錢、中苗は三十五錢、大苗五十錢を要す

埼玉縣北足立郡戸塚村西立野

埼玉園藝株式會社
躑躅株塔主任
大寶地山遊園々主

秋元新藏

振替口座東京一八四一三番
電信略號（サイ）又ハ（アキ）

一特別大苗及び盆栽式特等品の價格、公園又は庭園用或は同業家にて多數御注文の際は特に御相談可仕候

一時折品切有之候間御注文時代用品御書添被下度候

一當園は附近十餘ヶ村數萬町歩 俗稱安行花卉盆栽種苗生產地の中央部に位し 四時花不斷眞に自然界の樂天地に有之候、隨て躑躅の花期は勿論四季折々の風趣亦絶佳に候間一日の御清遊希上候、順路は東京淺草驛より蒲生驛まで僅か四十分其より適度の散歩にて 仙境に達せられ可く候

大正四年五月十五日印刷
大正四年五月二十日發行

正價金拾五錢

著者　大橋曉溪
發行者　秋元新藏　埼玉縣北足立郡戸塚村西立野
印刷者　高橋季吉　東京市小石川區久堅町百〇八番地
印刷所　博文館印刷所　東京市小石川區久堅町百〇八番地

著作權所有
無斷轉載之業

發行所　埼玉縣北足立郡戸塚村西立野　埼玉園藝株式會社

33

358
44

終